

第34回「関東地区会」定例研修会のご案内

主 催：日本人間関係学会 関東地区会
実施日：平成30年1月20日（土）14時～17時
会 場：越谷市中央市民会館 第10会議室
担 当：岡田 昌子

本年度テーマ：「支援者としての困難と克服」 －自分自身が挫けないための方法を見出す－

「ヒューマンリレーション・スキルトレーニング」(Human Relation Skills Training)=HRST

本会の小テーマ「相手との空間・関係づくり」 資格研修（更新）講座（選択講座B-1）

<趣旨>

高齢者や心身に罹患している人々の立場に立つということ程難しいことはない。良かれと思って支援しても人は十人十色で、相手を怒らせてしまい、挫けてしまうこともある。そこに相互関係を創造していく難しさがある。支援する人、される人との壁を越え、お互いが気持ちよく居られる空間・関係づくりについて、様々な事例を通してより良い方向性を探る。

<キーワード>

咄嗟の折の人間関係・世代間ギャップ・常識・良識・モラル&余計なお世話・健康度

<展開>（話題提供者・監督：岡田昌子）

I 部 テーマに基づく話題提供（14:10～14:20）：話題説明・事例検討

現役を離れ一介の市井の人となって数年経過しているにも関わらず、巷の人間関係におけるあり方が難しくなってきた。専門職（臨床心理士・スクールカウンセラー等＝クライアントの悩みを傾聴し、自らの力で解決・解消できるように支え、場合によっては助言する＝クライアントが自らの心を探り、ありのままの自分を認識したり、確認したり、肯定できるように、時間をかけて受容、共感しながら待つこと）として身につけた言動が習性となっている部分をアレンジして上手に応用し、人間関係士としての人間関係力を強化していく必要性を感じる。

しかし、世の中の変化による若年者と高齢者間のギャップが様々な場所で感じられ、疎通の難しさがあり、また、加齢につれて様々な日常の雑用に追われたりして、咄嗟の折の人間関係のより良い支援の仕方が、余計なお世話なのかとさえ思え戸惑う。

人間関係士であってもその人にとってのやれる範囲での支援でよいとは考えるが、高齢者や健康弱者が支援者になる場合、心身が傷つかないように、より良い人間関係の創造が可能となる手立てを、身近な日常に生じがちな事例を想定し、咄嗟の折の対応について模索し体験学習したい。

〔事例〕

- 1) 外出先でのモラルについて：若者や子供の親への対応
- 2) 電話への対応
- 3) 心の傷や怒り、恐怖が残る対応

- Ⅱ部 バズセッション(14:20～14:55)
Ⅲ部 行為法（監督チーム：岡田・杉本）（15:10～16:10）
Ⅳ部 シェアリング（16:10～16:40）
Ⅴ部 まとめ（16:40～16:50） 佐藤啓子顧問

※終了後、懇親会（17時30分～2時間程度・越谷駅近郊）を予定しておりますので、皆様、奮ってご参加頂きますよう、ご案内申し上げます。

<役員会>

当日、13時～14時まで役員会が開催されます。

<連絡・問合せ先>

関東地区会 杉本太平（宇都宮共和大学）
Eメール taihei_sugisan@yahoo.co.jp
FAX番号 048-977-8567

○会場：越谷市中央市民会館

住所 343-0813 越谷市越ヶ谷四丁目1番1号 代表
048-966-6622

アクセス 東武伊勢崎線越谷駅東口より徒歩7分（東口前
通り直進 越谷市役所前の建物）

※当日迷いましたら、杉本携帯（090-4393-1305）にご連絡下さい。



<次回 定例研修会のご案内>

開催日：平成30年3月10日(土) 14時から
開催場所：越谷市中央市民会館 第11会議室（予定）